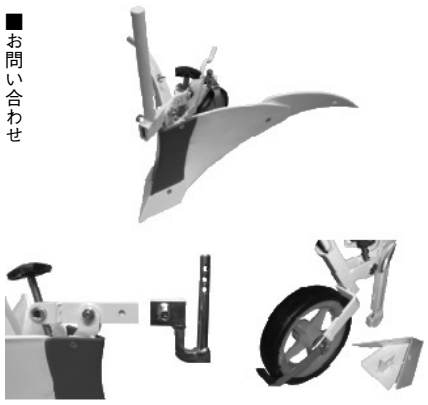
取付サポート（支幹）が着脱式に あらゆる管理機に取り付け可能

管理機用培土器

51 アポロ培土器Bプラス（尾輪付）



■お問い合わせ
旭陽工業株式会社
〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-23-1
ニューステイトメナー282号
TEL：03-3374-3835
FAX：03-3375-8267
http://www.tamano.or.jp/usr/kkc
※購入希望の際は各本機メーカーに問い合わせください。

希望小売価格

アポロ培土器	13,440～15,120円（税込）
ワイドアポロ培土器	15,015～16,695円（税込）
ミニアポロ培土器	13,020～14,280円（税込）

かつては管理機やミニ耕うん機を購入するとそのたびに一緒に購入してくれた培土器や溝浚器。ユーザーからの要望はいつからか、管理機を変えても付け替えて使いたいという声に変わっていた。

このたび培土器メーカーである旭陽工業㈱が発表したのはその声に応えるBプラスシリーズである。取付サポートと呼ばれる支幹がボルト固定の着脱式になり、磨耗しやすい底板も取替えられる。これまで管理機本体を変えたり、底板が減ると全取替が必要だったが、同シリーズを導入すれば一式を取り替えなくても済むようになったのだ。

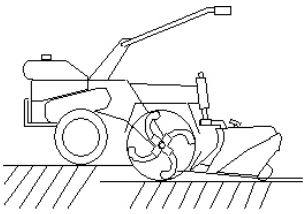
プラスシリーズのラインナップは、3種類の培土器（ミニアプロ、アポロ、ワイドアポロ）、プラ溝浚器、ミニ畦立器の5種類である。樹脂製で土流れの良い培土器は、かまぼこ型うねを形成し、中耕培土に活躍する。一方、プラ溝浚器は台形のうねを形成し、排水溝作りにも利用できる。そして、ミニ畦立器は小さい台形うねを形成し野菜のベッドづくりに最適だ。

特性を活かした上手な使い方

作業機の中でも比較的安価な商品であるこれらの商品だが、「講習会を行なうと、機械の特性を上手に使っているユーザーが少ない」と同社営業技術の担当者は話す。

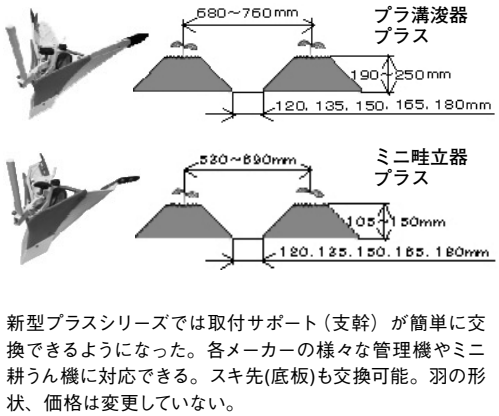
管理機のような小型の機械で作業を行なう場合は、馬力が小さいので、できるだけ抵抗が少なくなるように調整し、ロスを抑えて使いたいものである。このためには培土器を取り付ける際にできるだけロータリの爪に近づけることが重要だ。

さらに崩れにくいうねを形成するためには、うね裾を締めるために、前上がりの姿勢にして使用する。尾輪なしで培土ができれば、うねは根元から締まる。柔らかい土や砂が多い圃場では培土器の上から溢れてくるので尾輪を出していくといった調整が必要になる。尾輪を出すと残耕に跡がつくが、管理機全体が少し浮くので、土が溢れなくなり、うねがきれいに仕上がる。同じ機械を使っても、うねの仕上がりに差が出るというわけだ。



最新鋭の機械を揃えて作業精度を上げることも重要だが、すでに所有している機械を上手に最適な状態で使っているだろうか。いま一度見直して、安全に作業を行なっていただきたい。

（加藤祐子）



新型プラスシリーズでは取付サポート（支幹）が簡単に交換できるようになった。各メーカーの様々な管理機やミニ耕うん機に対応できる。スキ先(底板)も交換可能。羽の形状、価格は変更していない。